

山緑・著

又キ。奥  
島々まで、  
全国に広  
間に最も近  
の習慣や風  
に在る。  
存在である  
意や進化な  
いるとはい  
ナグマや  
同されるな  
がっている  
理し、提示  
言である。  
学、進化  
子、総合科  
めている。  
る極真カラ  
にちりば  
っている。  
(330円)



農文協・農業書センター  
電話 03(6261)4760

農家の知恵を記録したドキュメンタリー映画「百姓の百の声」(柴田昌平監督、カラー130分)写真は宣伝用ちらし)の試写会がありました。柴田監督は元NHKのディレクターで、第5回文化庁映画賞(文化記録映画部門)大賞を受賞した「ひめゆり」や日仏合作映画「千年の一滴 だし しょうゆ」など、数々の優れたドキュメンタリー映画を制作しています。

私たちは当たり前のこととして、毎日食べ物を食べています。多くの消費者にとって、食べ物はいっしょに買う「物」で



## 「農」の世界を映像化

す。柴田監督は、食べ物を作る農業や農家が見えにくくなっていないか、遠い存在となっていないのではないかと感じていました。農家のことをきちんと知りたい、農家は田んぼやハウスで何を考え、何と格闘しているのかを知りたいと、足かけ3年、全国の農家を訪ね歩きました。

映画では、福島県の稲作り名人、千葉県のトマト栽培の開拓者、佐賀県のキュウリ王、山口県の耕畜連携農家、栃木県で600種の在来種の稲を育てる農家など、多彩な農家が登場します。農家は日々田畑を耕し、作物や自然と向き合いながら工夫を重ね、困難なことに当たれば、当てるだけ上手に乗り越える、たくましさを知恵を持っています。これを農家の底力、農家力というそうです。

農家自らが語る「農」の世界は、実に創造的で可能性に満ちた「百姓ワールド」でした。柴田監督が映像化したこの世界を、消費者にこそ感じてもらいたいと思えました。映画は今秋公開されます。上映館などは、プロダクション・エイシア、電話042(497)6975に問い合わせを。(店長・荒井操)

日本農業新聞  
9月18日号より